

## 水ビジネスの今～世界中の人々に安全な水を届ける～

1995年、阪神淡路大震災を受け、日本ポリグル株式会社は納豆菌でつくった薬剤によって汚染水浄化システムの開発に成功した。2004年、スマトラ島沖地震をきっかけに、発展途上国の飲料水確保にも尽力している。また、2011年東日本大震災以降は非常時に生活用水を確保するレスキューセットの開発も手がけている。60歳でこの浄化システムを発明した小田会長にお話を伺った。



おだ かねとし 会長  
小田 兼利

### ■「国連でも紹介された！」

(略) さて二番目に紹介したいのは、ニルファ・ヤスミン。バングラデシュの若い女性で、2児の母です。「ポリグル・レディー」の肩書があります。

日本ではありふれた、とある食材(納豆)から生まれたメイド・イン・ジャパンの水質浄化剤に、「ポリグル」(“POLY-GLU”)という商品があります。汚れた水に、入れるだけ。余分な物質を吸着して沈殿し、水を透明にするのがポリグルです。

最初に正しい使い方を教える必要があり、販売員兼インストラクターになるのが、ニルファさんたち「ポリグル・レディー」というわけです。

お分かりでしょう、いわゆるBOPビジネスとして、女性の力に期待する特徴をもっています。ニルファさんは、夫の収入と合わせ、子どもを上る学校へやることができるようになりました。

幼い頃抱いた「いつかお医者さんに」という夢を、貧しさからあきらめた彼女はいま、「水のお医者さんになった」と、誇らしげに言うのだそうです。「自分への誇り」という、最も貴い財産を、ニルファさんは手にしたのだとは言えないでしょうか。

我が政府は、1人でも多くの、ニルファさんを生みたいと思います。ポリグルを作るのは、ごく小さな日本企業です。(以下省略)

(第68回国連総会における安倍内閣総理大臣一般討論演説より一部抜粋)

2013年9月26日、早朝4時、BSで第68回、国連総会一般討論での安倍首相の演説を見ながら思わず鳥肌が立ちました。ついに自社製品が国連で紹介されたのです。

### ■苦労と転機

神戸で震災に遭い、飲料水への好奇心から浄水技術の研究を始めました。そして水中の懸濁物のマイナス電荷を中和させ浄水する水質浄化剤、「ポリグル」を開発することができました。これは納豆のネバネバの主成分であるポリグルタミン酸からつくった粉末剤で、汚れの原因物質を固めて水と分離させることができます。池や川の水を透明

にする公開実演を何度も行い、その模様はTVや新聞で報道され世間を驚かせるほどでした。水事業として大成功するものと信じて2002年、会社を起ち上げたのです。この浄水技術開発に成功したのは60歳の頃です。当時は「もう歳も歳だから老後のためにも儲かりたい」と、心から思っていました。でも、期待の浄水技術も国内ではなかなか売れませんでした。当時の行政は実績主義で新しい技術には本当に冷たかった。私は、過去にもいくつもの発明をしています。金庫、マンションなどの数字合わせの鍵、ホテルのカードキー、すべての印刷した包装袋に使われている光電マーク、非線形制御理論など、今では、全世界に普及している技術を発明してきました。どの発明でも大企業になり、リッチになれたはずでしたが、私は一向に金儲けとは無縁でした。

そのような時、スマトラ島沖地震が起きました。タイ王室から救援依頼が寄せられて、私は、学生ボランティア団体を伴いすぐに現地に赴きました。

被災地には高価なフランス製浄水装置が据えられていました。しかし埃を被っている。現地の人には高度な機械は扱えないのです。私たちは、海岸に流れ着いたタンクを利用して簡易な浄水装置をつくり、もちこんだ薬剤を投入しました。住民にも手伝ってもらい、一時間後には大量の水を給水することができました。住民は大歓声をあげて喜び、大騒ぎになりました。

その日のうちに、小屋が建てられ、POLY-GLUの看板、タイ国旗と日の丸が掲揚されました。荒れ果てた悲惨な風景のなかで、ここだけは笑顔と歓声に満ちていました。空に翻る日の丸、学生スタッフの背中での日の丸が眩しく見えました。「もう自分たちで浄水できる」と、子どもたちまでもが浄水作業を手伝い始めたのです。

メキシコ先住民へのボランティア活動でも同じ歓迎をされました。「POLY-GLUの仕事は途上国

でやっていこう」と決心したのは、バングラデシュでのサイクロン救援活動中のことでした。

## ■BOPビジネス

「災害時に限らず、いつも汚い水を私たちは飲んでいる、これからも無料でほしい」と、現地の人々が求めてきたことがありました。「ただでは無理、できない、いくらなら払えるか?」。協議を繰り返し、1日10リットルで月に1ドル、1日20リットルで月2ドルと決めました。ビジネスとして成り立つ価格と、何より、現地の人々が自立した生活が送れるよう互いに交渉したのです。今ではPOLY-GLUは「BOPビジネス\*の星」といわれていますが、思えばこの時がBOPビジネスのスタートでした。サービスを継続するために、適正な価格で適正な技術を提供する、これがBOPビジネスの要だと思えます。

一方、現地での事業がすべて順調に進んだわけではありません。6年間で現地に40回以上渡航しました。壁にあたるたびに臨機応変に解決してきました。今では、約100名の現地職員に全面的に任せられるようになりました。装置製作、浄水、水質検査、配達にはポリグル・ボーイ (POLY-GLU BOY) と呼ばれる現地職員の男性、販売、集金、啓発活動はポリグル・レディー (POLY-GLU LADY) が担当しています。とくにポリグル・レディーとして働くことは、現金収入のなかった女性たちにとって社会進出の大きなきっかけになりました。水事業から始まったビジネスが、地域社会に変革を起し始めているのです。インド、タンザニアでも同様のビジネスが続いています。ソマリアには日本政府の援助で53か所のPOLY-GLU給水場があり、70万人に給水し、400人余りの職員が働いています。ここでも、難民キャンプで雇われ、ポリグル・レディーとして近隣農家へ水を売りに行く女性も現れ始めました。中国のある哲人は「魚を与えるのではなく捕り方を教える」といいました。POLY-GLUは「漁具の作り方、捕った魚の売り方、捕りすぎたら養殖すること」を教え、自立心を育て、ゆくゆくは起業もさせます。現地に入り込み、試行錯誤を重ねてこそできあがったビジネスといえます。

## ■海外で活躍する日本企業

中小企業は「小さなビジネスでも手がけることができる」「動きも早い」など、BOPビジネスに



実演販売するポリグル・レディー (2010年、バングラデシュ)

適している一方で、資金、語学、情報、人材と、大企業に比べてないものづくしなのです。そのため海外進出は日本政府の支援がなければ無理です。幸いにもPOLY-GLUは政府機関の支援を得ることができたので、大きな成果を収めているのです。

わが国民が豊かに暮らせる基本は?大切な資源は?それは「世界一信用があり、世界中から愛される国である」ことです。「赤いパスポート」を持っているから世界で優位に仕事ができる。では、この信用は誰が創ったのでしょうか?そこには戦前・戦後、日本から世界中に移住した先輩方の血のにじむ努力がありました。戦後、通産省、産業界を先頭に優れたMADE IN JAPANの輸出に励んだこと。青年海外協力隊を象徴するような、国際協力事業の積み重ねがあったからです。同じ人間として生まれ、不幸で過酷な生活をしている人々が、世界にはたくさんいる。それがなぜか考えてほしい。一方、豊かな生活を享受している私たちは先輩方の「貴重な遺産」に救われているのです。この遺産を食いつぶさず「増やす」こと、新たな信頼を得ていくことが求められているのです。

## ■人生の役回り

みなさんは若い。私が世界とか社会貢献をいい始めたのは60歳からです。以前は「儲けたい」の一心でした。今では、10年早く「自分の使命」に目覚めていたらと悔やんでいます。私もいつかどこかの国で倒れるでしょう。でも、「自分の命のつかい方」がわかった今は、どこで倒れても幸せ者です。みなさんにも、いつか本当の人生の出番がきつとまわってきます。必ず来ます。周囲に笑われても、どうか大きな、大きな夢と目標に挑戦していただきたいと思えます。

\*ベース・オブ・ザ・エコノミック・ピラミッドの略で、経済の底辺で暮らす世界の約40億人をさす。企業の利益を追求しつつ、巨大な市場ともなるこの低所得者層の生活水準の向上をめざすビジネスモデル。